

# 東愛宕中だより

～良き社会人を育てる学校～  
誠実・協調性・粘り強さ

多摩市立東愛宕中学校

〒206-0041 多摩市愛宕1-52

Tel: 042-374-9781

ホームページアドレス

<http://www.tama.ed.jp/atagochu/>

ユネスコスクール認定校



令和 6年 4月 16日(火)発行

第 1 号

## 令和6年度 第53回 入学式

校長 竹田 和彦

4月9日(火)に令和6年度 東愛宕中学校 第53回入学式を挙行了いたしました。近年の桜の満開のピークは、関東において3月中旬から下旬となっており、年々早まっていく桜の満開時期に、戸惑いや不安を感じておりました。今年度は数年ぶりに愛宕山の桜が満開の状態で行式を挙行することができました。雷・強風注意報が多摩市に発令されている状態ではありましたが、「潤いある中での入学式の挙行」、あるいは「雨降って地固まる」というポジティブな言葉が脳裏をかすめる中、挙行了いたしました。



入学式中の「新入生呼名」では、一人一人の新入生が新しい担任から名前を呼ばれます。その様子を私は壇上から拝見しておりました。その場面で、印象に残ったことがありましたのでご紹介します。

新しい担任から、新入生の名前を発表した際、その生徒の名前を、私は心の中で復唱しつつ、一人一人の新入生を見つめていました。すると、呼名に対する返事をする、ほぼすべての新入生が、私と目を合わせながら「はい」と大きな声で返事をしていました。その時の一人一人の目がとても輝いていることが壇上から見て取れました。目は心の窓という言葉がありますが、希望に満ちた気持ちや、現状維持ではなく、さらに向上させようという気迫さえ感じました。

在校生代表の言葉を新入生に向けて発表してくれた本校3年生の「歓迎の言葉」では、将来の夢や自分の考えなどについて、周囲の仲間の意見を聞く事の大切さに触れてくれました。そこには自分とは異なった考え方や視点があり、参考になることを自身の経験から述べ、自分で考えることの大切さと、時には仲間や周りの人を頼って力を借りることの大切さを伝えてくれました。

また、新入生の言葉を全校生徒に向けて発表してくれた「入学の言葉」では、新入生代表の生徒が「待ちに待った入学式」から始まる出だしの言葉で、新入生の心境がよく伝わってきました。また、コロナ禍を体験した小学校時代の不安な気持ちから、今まで以上に自ら考え、仲間と協力していくことや、学習面や部活動への夢や目標を力強く堂々と伝えてくれました。

この新入生たちの光り輝いた目をこれから維持させていくためにも、改めて教職員一同、一丸となってよりよく導いていこうと、その責任の重さとやり甲斐を強く感じます。

また本校では、東京都より認可されたチャレンジクラス 通称「あたごSpace」が今年度、多くの皆様のご協力を賜り、新しく開設いたしました。あたごSpaceのクラス名は、各学年ともに「S組」といたしました。「あたごSpace」のスペルから「S」が由来ですが、認可されたチャレンジクラスが東京都で10校のみであることからSpecial、あるいはSatisfaction(満足)、Sustainable(持続可能な)という意味をもつ「S」でもあります。担任・副担任4名の教員と共に計10名の教職員で指導・支援を行って参ります。

今年度の学校経営方針も「よき社会人を育てる学校」を柱に、社会人としての基盤を身に付けさせるために、教職員が地域・保護者及び関係諸機関と連携して教育活動に取り組み、将来社会を担う、「よき社会人」を育成する学校を目指してまいります。特に今年度は「思いやりと寄り添い」をキーワードとして、個別最適な学びの実現に向け、大きな一歩を踏み出します。どうぞよろしくお願いたします。